

1. 雑草防除

○生育期にイネ科雑草が多発した場合は、除草剤を適切に使用しましょう。

【除草剤の散布の目安】

薬剤名	適用雑草	10a 当り使用量	使用方法	使用時期	使用回数
ナブ乳剤	1年生イネ科雑草 (スズメカサヅケを除く)	150~200 ml (水 1000l 当り)	雑草茎葉 散布	雑草生育期 (イネ科雑草 3~5 葉期) (但し、収穫 45 日前まで)	1 回

2. 病害虫防除の徹底

ヨトウムシ(ハスモンヨトウ・シロスジアオヨトウなど)は野菜跡などで突発的に発生することが多く、早期発見・適期防除が重要です。早めに防除し被害を最小限にとどめましょう。

○播種時期の早いほ場や生育の旺盛なほ場を中心に
見回り、被害が見え始めたら早急に防除を行いましょ
う。

○薬剤散布をする場合は若齢幼虫時に行いましょう。

○団地化された地域では、誘殺用フェロモントラップの
ほ場への設置が被害の発生防止に有効です。



ハスモンヨトウ (幼虫)

【そばに登録のある殺虫剤】

害虫名	薬剤名	系統名	使用時期	使用回数	希釈倍数・使用量
ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ロムダンフロアブル	IGR	21 日前まで	2 回以内	2,000 倍・150~300 L/10a
	ロムダン粉剤 DL		21 日前まで	2 回以内	4kg/10a
	クオークフロアブル	BT	発生初期 (収穫前日まで)	—	400 倍・150~300 L/10a
	ゼンターリ顆粒水和剤		発生初期 (収穫前日まで)	—	2,000 倍・100~300 L/10a

※IGR：昆虫成長制御剤、BT：天敵微生物を利用した生物農薬（殺虫剤）の一種。いずれもミツバチやハナアブ等の訪花昆虫に影響が少ない薬剤。

【フェロモントラップ：ハスモンヨトウ雄成虫誘引剤】

薬剤名	目的	使用量	使用時期
フェロデン SL	ハスモンヨトウのオス成虫を 広域的に大量に誘殺	1 個 (台) /30a (1.5~2 ヶ月有効)	播種後 2 週間後頃~ 1.5~2 カ月間



フェロモンに誘引された
ハスモンヨトウのオス成虫

誘殺用フェロモントラップの設置方法

- ・トラップの種類：ファネルトラップ
- ・設置時期：成虫の発生初期(播種 2 週間後頃~2 カ月間)
- ・設置場所
 - ▶ 団地化された作付け地域で広範囲に使用する
 - ▶ ほ場周辺部の風通しのよい場所
 - ▶ 播種時期が早く生育が旺盛なほ場
- ・設置高：地上 1~1.5m(そばの草丈より高く)
※支柱などを立て、固定してください。
- ・設置数：30a 当たり 1 台(2~4 個/ha)
- ・その他：トラップに捕殺された成虫は適宜処分してください



ファネルトラップの設置



ハスモンヨトウ
(雄成虫)